

第8回基本計画専門調査会への意見
CSTI 議員(東海機構長・名古屋大学総長) 松尾清一

<資料3について>

全般的事項： これまでの議論が徐々に煮詰まってきている気がしており、この文章に反映されていると思います。その上で、この文書を Society5.0 啓発文書として公表することを想定して、気になったことを以下に記します。

(1) P1、下から9行目 「第二次世界大戦……」の段落

ここはどの時代をスコープに入れて書いているのか不明であり、もし戦後から現在までの長いスパンを考えているのであれば、戦後もずっと覇権争いは絶えず、領土資源の奪い合いも続いているので、このままの文章ではあまりに短絡的である。

例えばこのように直せばいかがか。「第二次大戦後は、豊かさの基となる領土や資源を獲得するための手段として植民地支配や大規模な戦争を用いる時代は終わり、もっぱら経済的手法や最近ではIT デジタルなど先端技術覇権が手段として用いられるようになってきている。情報や経済のグローバル化が進む中で、国や体制の如何を問わず、世界はより豊かな社会の実現を目指して、日々、し烈な競争を繰り広げている。」

(2) P5、3行目： イノベーションについての記載であるが、ここでいうイノベーションは科技基本法でいうところのイノベーションであって、一般的な意味ではないことを銘記すべき。⇒「科技基本法でいうところのイノベーションは……」に訂正したほうが良いのではないか。また、イノベーションのイメージについては、「常識を変えること」への転換ということであるが、ここはわかりづらい。前後の文脈からして、「人間中心の新たな価値の創造」としてはどうか。

ちなみに、「商品開発や生産活動の改善」とあるが、これでは今まで取り組んできた人に失礼なので、「革新」にしたほうが良いのではないか。

(3) P6、第二段落(7行目)： 何か印象的な言葉があればわかりやすいか？ 今まではひたすら健康で元気というのが目標で、「健康寿命」という言葉が出てきた。これからは人生100年時代で、人は何を幸せと感じるのか。社会とずっと関係を持ち続けることが幸せではないのか、という発想から、私は以前から未来社会では「社会参加寿命」という言葉を使って、これを延伸することが重要であ

る、と提唱している。あるいは人間寿命としてもよいか。何か、わかりやすい言葉で表現できると、この辺りに書いてあるイメージが一言でキャッチできるのでは？

(4) P7、下から3段落目(泥棒と火事の話): このたどえは品がなくはないか? 警察や消防は国で、住民は自らを自分で守れといっているようにも取れるので、誤解のないような記載にすべきである。

(5) P10、トランスフォーマティブイノベーションという言葉: ネットで検索してもなかなかヒットしない、唯一英国サセックス大学の取り組みがひける程度。従って、ここは社会丸ごと変革というような解説が必要ではないか。

(以上)